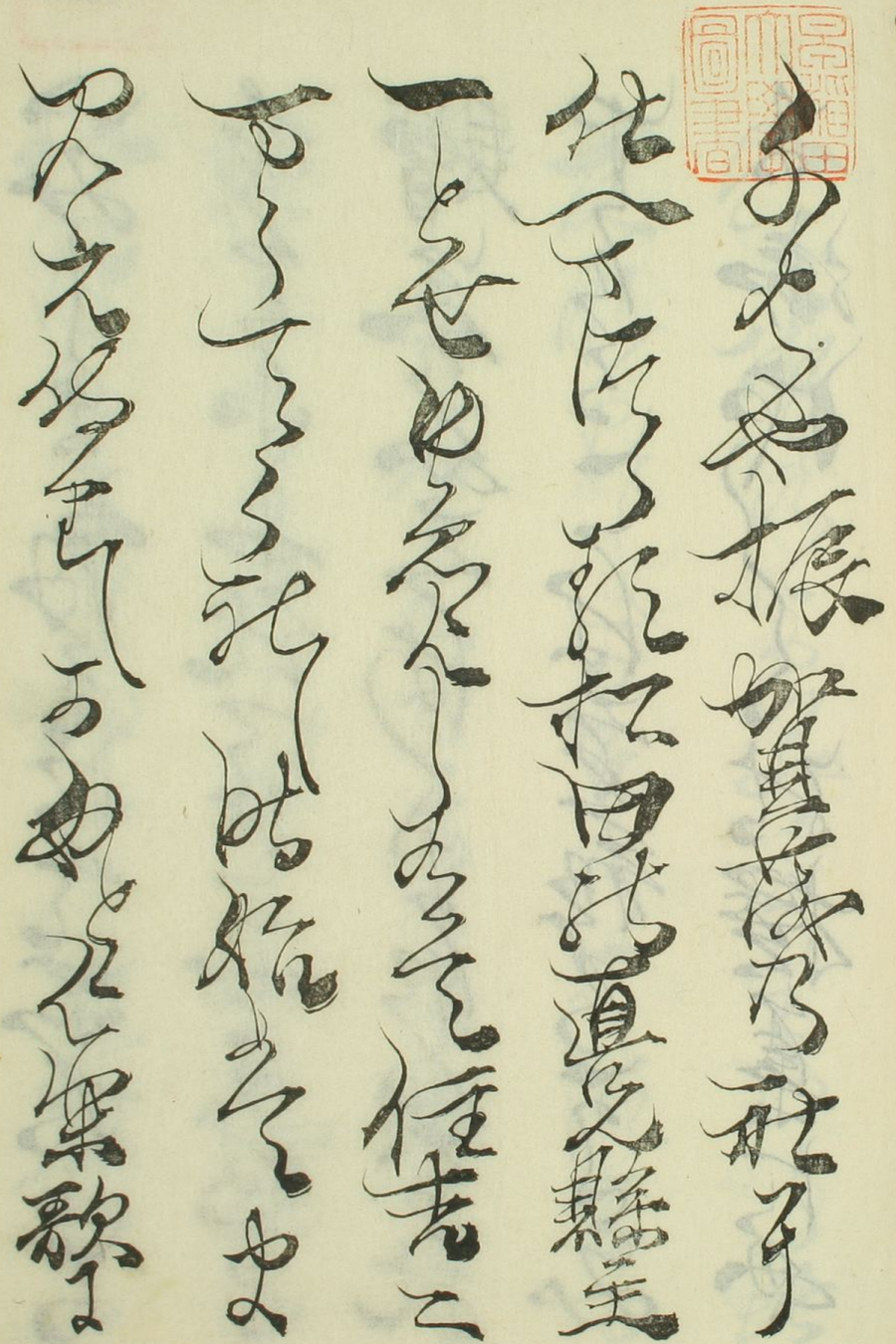
四書集註道語
ヘ4
4323

故横山有策氏
昭和四年五月
寄贈

^4
4323

獅裕亭精藏



4323

いみしき毎日にあたらしき
なをもとめ花にそなへたるはせる
贈答の文にはあらぬ花
やうなることはを和のうつみ
よ御代くさ撰集にあ



へてはたるるみちの跡
友形見しのたたるとの
してたるることのつるあ一さと
形をたるしはしの春
へてたるを和歌を

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

大をしの人風雅

文政四年八月

従三位清原國禮



言葉直詠序

哥ハよむとのうるはしきあるをよく詠ことを

かとするわすれたるもむ事はしるこゝろ心を

寺にふかくとゝめたるを紀ゝ貫之ハ花のよみえ

たるハうれしとゝうなるにもあるをいる

あるをみるゝ詠まむとゝもとゝふるはやうゝ

ゝ乃生ゝ心をうゝを思ふまふ

れハ家のつゝ形ゝ
明く星を枕乃為
孫星を花歩兄あ
てふ一歩我ゝ行
志あゝさと花を
乃いそほるあゝ
てもとも除はも
を紀をゝ

を
と紀さと行を
除く志ゝ
出心はを
と同ふ
みをゝ
まゝ

ゝはゝ言行のすれなゝ人きゆ家ゝ
とゝ紀さと行を
除く志ゝ
出心はを
と同ふ
みをゝ
まゝ

ゝはゝ言行のすれなゝ人きゆ家ゝ
とゝ紀さと行を
除く志ゝ
出心はを
と同ふ
みをゝ
まゝ

後世に伝へんとてこれを書きあつめたるなり
いにしへのものがたりにもとあるこゝろふかきこゝろ
ろ上代のもてなしをもつたへたる風雅
ひとしほ深くさとる事なりみやこの西あれよ
もとよりいそらるゝこゝろをなぐさむる
文政四年九月十三日宗岡行敬しるす

ちはや振神代なほ遠く乃こゝろ葉の花ふる世のまで
著くしるしおのづからすぐれたる風雅ありこゝ集
さあらむやくよりそもゝをあつめ今を書しるしよ
とみれば言葉づかひ二重三重に紛れ入り西わざいまだ更に
ことアゲ
言擧せぬもの中にまぎるゝわざなりあづまのくに
ミクニ
風雅をうるものあまりに物ものをさどちやうく
クバチ
ちかく言葉の直路をゆくべきあるべし古今集の
序中に盡きるものを古今集の
ツク
もりつゝこと足らぬこと足りぬことを
アゲツラ
もそうにあゝく論へ侮なるべし

屋ずまと雲を人のこころを種とし
葉とぞなれりける
ことばにてぞ
こころの業たねある人の心
なり。さることあるべかめるなり。歌の大意いちじるし。和らぎづの
まち言は發。そもことを昂うるなり。歎ばずさを
感くとは。言葉よろこばしく哀しくなるを。
千年のふるのことを昔とすり。こゝを素直なる
人の自然なるを花なり。甚和らぎ形に言の
徐なるばかりなく。調のとゝのはざるなり

なり。さて社。人のこころを根とし。くさ〻ばの云乃
葉とぞなれりける。うゝはとゝのこと
世中にある人ことわざしげきものなれば。心に思ふ事を
見るものに。はげめれ言葉を大意。うた祝ことゝ言ること
祥なり。凡をかしき賤なるそのくの事業をげきふ。
世をなべてなるひるわざにふれ物よりのこと
なるものよつゆく。ちあめず感とおもふこと。こゝを昂高
なるべきまゝ。いひ出さるゝ也となり。或人の云。ことわざ繁き
よつゆくこゝとあれど。たゞ煩雑なるいで一言もいひ出さるべき事。
夫心あはたゝしく。手足をうごかし。それともゆるあるおもし

たゞ〳〵[illegible]ぐに[illegible]れはあゝ[illegible]ば。[illegible]のあはれのもてまんを。[illegible]たゝ[illegible]なき水
[illegible]萬象のさやさに[illegible]ゆ。又[illegible]。[illegible]。[illegible]
[illegible]。[illegible]。

なほあるを純誠(マゴコロ)より、いひ出るものは、是こそ神代なれば、いかばかりあるべきさまにて、教へをてにとるばかりにて、人をも和らげ、ひとをも

るかと、事無(コトモナ)く、年なが(カキ)きにも、ものゝ道ぞ、こゝ人々、ものゝ事をもちて、尋ねやすくとゝのへられ、ぬきなれど、物をふるに、頑(ヤガテ)、世のこゝろ(コヽロ)、ものゝ道をも、いと速(ト)、あべきものとも、ものゝ道をも、ものゝ道をも、ものゝ道を

花となく雲とも水とすむ蛙のこゑをたづねばもとし
いけれもはかばかの雲とをなざりもあるか
和らげつゝそのをゝしうるはしき理をこゝにあつ
せり。裏〳〵なる裏の。むよ明なる。ぬる色る水よや
翠をつる蛙も。自然と時節を感るなるべしと雲
ゆゝく雲にて人をいふ。さて此の事にかゝる。
よあゝめく。はかばかの雲を詠ぜんとて。此雲をたづね
聲にたとへ。ひゝめる也。これ蛙蛙の二つよりいたりて。
そのゝうかる萬物のうへをぐ。擬へて。をてり。
韓退之送孟東野序云。大凡物不得其平則鳴。

艸木之無聲風撓之鳴。水之無聲風蕩之鳴。其
躍也或激之。其趍也或梗之。其沸也或炙之。金
石之無聲或擊之鳴。人之於言也亦然有不得
已而後言。其謌也有思。其哭也有懷。凡出乎口
而為聲者。其皆有弗平者乎。樂也者鬱於中而
泄於外者也。擇其善鳴者而假之鳴。金石絲竹
匏土革木八者物之善鳴者也。維天之於時也
亦然。擇其善鳴者而假之鳴。是故以鳥鳴春。以
雷鳴夏。以蟲鳴秋。以風鳴冬。四時之相推奪其
必有不得其平者乎。云〳〵とある序。はゞめん

喻(タト)へ。おほく出てきたれども。凡平なるものは。海よりふかく
平なるざれごとは。素直(スナホ)なれども。うごくめ
れことわり。すべてもいへつべしなれば。
出でたいぐもるれり。海にふかくもの感(ウゴ)く
るべいふと。れことありげよりふかめど。すべく
とあることありくいふめれ萬葉(ヨロヅノコトバ)。こころのうごれ
くいざるれ。近く平(ツネ)なる詞(コトバ)をもさしり
つべし。こは一人なれば。ことあめば。ひとつま
思ふ。ものびうれくハ獨(ヒトリゴト)ごとよりはやくめりさてそれ

なりつるるとこのれべ人ようたてやすべそれ語
まさしきに挿(ヨコバ)さしめ出ぬべ。ほりるくはさハ
ものゆうれが(ココロ)あなり。又ひくくんよ思ふることも
ものまりてもあ有べ。いとで歎息(ナゲキ)ていろにも
顕(アラ)はさ後の歌ることわりなべ。後撰集。
ある所ろく簾(ス)のまへ。ろれこあ海ごうめし
付りくるとあく。内よりかやう。海のあはもすす
うなるあ。歌ことれとあるもく。あはのてふことに
ものれハなるめどもいはぐくもえこそかへぬ海なれ
とくある。要之ぬの意。これ一首ようる

ちはぐ〳〵。定家卿。倭歌無師匠とも。たゞしき中〳〵。
ゐなかのきこなす歌人などゝハ。我こそは風流人なりと。髭
うゑ拵へ。猪漫なるこそ。うとましけれ。世に奇
よみといふ称いゝ。て。歌に奇特なるもの〳〵に成
またるれむ。こゝ。ろ。ゆ。とゝ。也々。さあゝ。彼いはで
もあゝ。ぬ。ものゝ。ハ。狂せよ。ものゝ。こゝ。ぢ。もな
ほこゝ。ろ。あ。〳〵。いふ。ゝ。ほこ。ゝ。ろ。ゆ。ゝ。ほこ。ゝ。ろ。ゆ。ゝ。ほこ。ゝ。ろ。ゆ

ゆえ、和歌をもて、ものめづ。思ひきたちあるにも、言葉
をかたちはざるあるもの。虚れ記、その事、あるハ
一首、あるハ二首、ないし、旅いでぬ人、世よりなれぞかし。
こゝろかあるもうく、たゞ、言葉あるハ、世間俗なれば
也。りさわざ、ハ、言葉、嫌の言あり、やたく、言葉
得しうしんよハ、苦むに、手あるもよたる、言の葉、
玉を敷、いしぶ、蒔、蒔、人の種、まこと、事、
えつぶ、とにかくうも、もとゝ、ひけるもの、ひ、
言葉をもたりりくれ、ハ、言葉、ひ、しさ、
ちかき世の俗言異邦、語なぞ、かゝ、ひ、習ふ、

多、言葉、ハ、ふ、言葉、ふみ、ぬハ、中に、吾倭語、疎く、
平言、にも、おくを十、ゴ、七八は、皇国風、ようゝ、ひな
ゞ、和、その詞、ことも、ひ、ハ、中、言葉、蒔のたゝ、ハ
偽なゝ、ども、其、つ、ぬ、き言を、かゝ、記、ふ、和、
紛、て、言葉乃、和、づ、なること、を、物、ちかく、ハ、
人、あく、御、和、立、に、よ、ば、ハ、るゝ、
くを、ハ、まること、社、あを、漢音、梵語、なぞ、耶
文、ふ、る、ひく、ハ、教、諭、ひ、和、きよを
いふ、云、一、こと、し、やと、言葉、ふ、ハ、な
記、を、中、に、ひ、ゝ、風、こ、ふ、俗、言、漢語、なと

ゐる效（ナラ）一るあれバ。純誠（ニゴロ）よ相ゐ（ゐ）ることを。自然ゐ[illegible]
ゐる雅言（ミヤビコト）にうたさ[illegible]よ。何のかゝ記るゝのゐ[illegible]
て紫をわくる文字。始（モト）終（スエ）のとゝ[illegible]ゐ（ゐ）ゐ[illegible]
定則（サダメ）あるにゐ（ゐ）ゝ。是（コ）ゝ[illegible]ゝ心（コヽロ）よ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
む正。ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ん[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]辭（クヾヒロ）の動ゐ[illegible]
再（フタヽビ）ひなほさ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]止（トヾ）ゐ[illegible]

と記ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ひ記ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ど[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ことゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
も[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
短記[illegible]ゐ[illegible]ゐ[illegible]
ゐ[illegible]立（タツ）ゐ[illegible]言（コトバ）ゐ[illegible]
ゐ[illegible]敢（オモムキ）ゐ[illegible]辭（クヾヒコト）ゐ[illegible]

て。ほどくの調さへ出くるあり。長短とともに神代よりの
次さえなどすべて。すべて三中一字(ミツノチヒトツ)なれば。えもいひもしらぬ微(タ)
妙あり。末にも止(トド)まり。本にも始(ハジ)まり。ほどめもたどげ
ふに萬(ヨロヅ)よまにくちりや。大原神のおわばな
ほぐ。出雲いかづちを。めうも造りはじめむ。こぐ天
地のやまめる白調(シラベ)を形さむ。
ちこうまいもぐらくて地をうごかし。発よこうあ
鬼神をあはもてあはもはも男女の中をやはらげ
もてはよもれ郎のんをもなるこはむる八雲なり
歌の功験(イチジロ)をこうに書もり。第にも強のいるむ

形容にもあもつちも感動(ウゴカ)ざるんやもろもの偏(ヒトヘ)
なるうこにも鬼神も何はもまばもも安居(シレタシミ)を
ふもる奇に八男女の中を和睦(ヤハラ)ごばんや。あはも
極を形き強るも武士乃ん歴まざるむ。ちかを
して天地を動ーなどこるハ。やなーて書(カク)ることくやれ八語(ナジ)まれ
狂生なれるもあ。神ど餘材抄るもいちどろうりし證云をあ。くりハ
ぐたり。古今さる。やこ。ひあげそこぐ。うーごにまさに吾賀茂重保神主乃
月詣集の序にも。神のこころを動ごさんる。倭云にすぐ。うーに。色よりて。
三十番の寄合を撰ぎ。こ。ものあの間よあやーう。をへるる匂ひこそりき
為を祈りもくうをもあぐまべたちまちは天川水をせたぐ
さる。云ことをもあくりにもうるる。ほ餘(ホカ)をもうれど
尼くべこ。ぐ記論をれいひ。也餘(ホカ)をもうれど
も。藤原敦光朝臣の倭謌序よ。我朝風俗倭歌(ヲ)
為本といへる如く。これ歌。ことも加これ大皇國(オホミクニ)の

大綱(オホヅナ)すべて。おろづの〜直(ナホ)くしく。今を神代の
流(ながれ)なるべき。萬(ヨロヅ)の神のまにまになることと思ひおく。
ふるきを捨て代々あらぬ廣況。大君の恩澤(ミカゲ)をの
ちづけ形を奉り。いまの行束(ユクツカ)うしろ安き。諸國を治(タヲ)さること。
教(おしへ)ざるに新を忘れ。こゝろ惑を脩(ヲサ)め。諭(サト)さずして素
なる情(アハレ)を友とせんこと。けだし難(カタ)からずみな〜雄(ヲ)しく。
こゝに施(コレ)るを業(ヤハ)ら況。古書(フルキフミ)どもに見るにも異說(アダシクニ)
まどはす。熟(ウヒ)〜あ況。他邦(アダシクニ)のことをやまも。
善惡(ヨサアシ)をわいまめて。遠(ト)くこゝろ得(ウ)あり。又日本
爲のをりゆ〜さ〜に〜山川の奇況(キリサ)ものの樵(スガタ)

而(しかる)ぞの音(オト)。名山のこゝろ。まぐ。殊よあはれ。よ。ぞの
る動のこゝを純(ニヅ)ぐ。の隈なく。ものゝ感情(アハレ)を忘れば
形りけり。さりこゝろのこゝ爲れく爲のあはれを忘
まどを。おのれとんもなるさむあり。こゝろの爲
さて社石よりとへ。筑波山にうけく君を祝ごゝろ。
などを。集中此爲どもにより。歌よいひくを感(ナヒカ)め
ゝ形といひ。中し。富士の山も煙をだなり。長
歌此物もつくれるりと。人を爲よれらを仏を
動をさ況ゝるとい。るごとく。ものむすびなくてゝ
使ゝるだよ爲にゆあ。われとこゝろの寛(ユル)びく

和さもめり。見えなくなるまでもとて歎むよ
あしびに感格くまに〳〵自然やはらびぬるさまが
まことに哀追なるに助む有りて詞花を
葉をもてそのそぶるなどの称いぶ来ぬるは和哀
奇語とさへ〳〵とれ〳〵祇まるを。あやなくも花和ひ
とりく擬をるがあれば。うきはるるほどく
犯て奇語もいで来ぬ。さる犯をぞ神も君
もよみ。神も元にも告べしやこれ人和さ
なる折よりあれくかも〳〵戦よりもむことある。を裏
よ尼れをるにも有ぬ。やまと撰つゝ詞乃花乃の

実とともに伝りく世よとぐらくまく聲〳〵祇一ふ
あれを何〳〵あまなどひく〳〵ぬらで祇廬名を地ほを
きるにも有べし。あれを戀情の執柯などもふ
発り。国より為ことく〳〵ふるも。歎きれふ祇ぐ
世人の性なあぐ。悪哀れ多きもされこと形り。夫
婦きぐひよ恵きばるもんるも。をゝうみも有べう
ば。人業をこと〳〵ゑさ〳〵あれど。情の由くまに獨
言たゝ〳〵を。誰うもとが発む面をさげるく腹黒
尼ねぢみ人などにるぐ〳〵若〳〵くぞあるを。を
いふ為。男女の中にも限るぬう次。天臣父子あり

ゐるをはづ。新旅（ウカラ）朋友（トモガキ）を慕ぶよりも。身をたゝもて。
発づるにも。こゝ乱恋の情（コヽロ）は放（ハナ）さざるをもて。とゝ次をば。
彼こゝろ形（ナ）称のこゝろに比べおきる八百やと仏よ
あゝざるもの。僻（ヒガ）めるたりまし。妬（スキモノ）るもの所為（スサヒ）とし。
隠者（ヨステビト）の業（ワザ）とおもひて。何ものをもゝざるより。事をこゝろむなどの譏誚（ソシリ）を
いひ。隠者のうち僧をもて嗟歎（ナゲキ）のこゝ葉あまたあり
ぞ。さればこゝろあやまり惑（ニド）ひるに有るべし。ちの
所をもゝ。ふまづ。天地をもうごかしめるこゝ
なるべきや。

此こゝろ天地のひらけはじまりよりいぐ記るゝ
歌のおもづゝ見るおもむき。上にの記せるゝ所ゝ。さて
ちゝよ天地の初（ハジメ）。天津神代（ハヨ）ゝ。おのつゝ
いぐ記るゝ所ゝ。ことゝ。家平ゝにあこの
物語なり。

後人の配注よ。天のうき橋の下にゝく。女神男神と
なりまつるこゝ。阿那迩夜志の床（ミコト）を拳（アゲ）。いうにも當初（ソカミ）の所為なゝずあるべうべ。
こゝろほうにも。おもむく所ゝ。こゝ
代紀たゞよ。狂こゝかこゝ。こゝにこゝゝ。さまで。今もさるを
ゝひをこゝろ。おり抜（キ）めくいる也。次よ。ちゝもあわど世よ付ほるこ
ゝゝ。久方のあめゝ。下照姫よ。ほゞまり云くといこゝを。
あはすゞ。又下に。所為神六（サハ）なりとあるゝ。當時（ソカミ）詩（カラウタ）いまく
行はるゝ。ゝ。ちりよ。ちゝ。
をかよ。ゝゝ。はやきをよ。蓼（カ）ゝ。ゝ。
うく。ゝ。ゝ。ゝ

代とく。えらいはぐくもあれど。うゝぬ思ひありしるべし。こゝを
あしく見なばうゝ此大あらのまぐもひゝなれどうゝあれど
いふからゝ下に狂いはまほし。此ことは此あれど。
家乃たもまよやゝなれこゝろはぶれを案。古の神代形
ごゝ此を乃たりくゝまる。つのくん つちと太は畫る
こゝろ如く。時乃窪るに陸ひく。古今此風俗ひゝ
びとの氣質。このくれ隈なれを見れぐし。神
代にを事此文字もさまゝだ。ずれおすを
こゝ乃意わ記ごゝかりくゝしといへるめく。古事
記日本紀などゝ代はりれこゝある神代の哥。い
まれ世まゝを耳どはまぐゝ神さびゝゝ。同じ記
記如ゝ。神武時代ゝ世ゝ此哥ども。躬をすこ

しく鬱りたれど。猶筒古にて。ゝとゝ上古風
なり。萬葉集の歌ども。仁德皇后。雄略帝形ども
二三首乃ほゝゝも。風俗を古く。天智、持
代より。孝謙、淳時まぐれ哥ども多ゝれも。其
時代ゝまゝこゝろ。調やゝゝ古ゝりさ
る中にも。人麻呂赤人などの哥ゝすゝ此ゝ。
東歌などの言如ひゝ強きなど。此まぐれゝ。總
ゝ其時代ゝの古風如り。古今集を。おれつ
ゝ言詞ともに和鶯ひゝ。いまれ平安城風こ。
さゝ此ば奈良の頃此言ごゝもなど更ゝ八。躰ありて

紡(ヰギ)るなどもあれど。後撰集に。古今集に入れ。後(オク)
くるしづるほどにいるく。中にふる記。新(スガタ)をむまと
云ふるよし。昔(ハヤク)よりいひ。小野宮の大臣(オトヾ)九條の
大臣などを始め。多くあるまを。その時の風躰(スガタ)は
うに出て。拾遺集に遺(ノコ)まるを拾(ヒロ)ひ。ことあれ
ばつゝく。第なる集にも百そあるまり。中書王い
さゝか改(カヘ)ばかりて入らまたれど。公任卿。紀宣旨等
などをはじめ。今は詞なれるまを仮名形。
其餘(ホカ)は集ども。或をめぐりて。何れはつゝ助く。
それすがらを言葉。初(ソナ)はくはまぐなれど。すべて
そのかたちなれば。その時代々の躰(スガタ)はり。
古をいふ。一山家は今なれば。よこなれどよりなれど。
大和國は皇居(ミヤコ)にあさまを。つるほどの風躰(スガタ)をかゝ
く。山城國は大宮にはおはしまして。よの風詞(シラベ)
やはらぎ。さゝくの多ふ餘まるいまは大抵代は。
到りゝく。大よは我をゝ。ゝの所(カハ)をゝ。ゝを地(トコロ)の
風形(スガタ)なりゝ。また人々は言ゝ。第をは
いゝを言まく。國々は風あるゝ。うゝ言まるかゝ。ここの
まで。玉敷(タマシキ)の平安城(ヒラノミヤコ)。山の形(スガタ)。長閑は川の
流ままゝ。ほし。言は優婉(ヤハラギ)まるそはること

なほ。さらぶ。あど。山城國に。いふ。一も山城の國ぶ
りあるべきなり。論ひなほすを。あるべきを。
ぶり。一つとして國俗（クニブリ）あるべきなり。やまと山川まで
風俗（フウ）あれども。天の下をさめ。大和地（オホミヤドコロ）の都風（ミヤブリ）にて。
をろぶの國を。おのぶ。おのぶ。おもむきあれど。はなはだ。
なり。彼人。人。此方。人。あるべきなり。鄙（スガタ）を。ものいふ。
此國。此方。かくぶ。なるまに。なるに。古今に
風俗（フウ）。さかり。おこなはれ。をこなはれ。をこなはれ。
くむほど。證（シル）。天地のひらけはじめより。
ぶぐ。素よりなれ。ことも。きこえあるべきなり。たるべ

やはり。さるべきなり。
とて。むかしより。萬葉集の當時（ソノカミ）。
くこと。ことの葉（サキ）はし。ものの心のいふこと。
をつと。情（サト）。うまく。察（アキラ）めつべし。抑。萬葉の古歌。多
まに。樹言（スキタカヤ）。萱を。繁りて。ふるごとく成て
をこなふ。時なる哉。これ百と。數。餘りに。いふ。
なるは。記。手弟（テヲト）。とりそへ。を。拾遺鎌（トカマ）。をく。二
三子（カレ）。うち。拂ひ。よ。をこなふ。功（イサヲ）。大きに。ふ。五百世（イホヨ）の遠（ヲチ）
を。まどふ。まど。記。文。改。の。いまだ。大和代。なる。成。
きり。さるべ。いふ。一。を。ものべ。あまりに。上古の風

和言葉をなゝしくゝ。ゆゑ一(ヨ)は似(ル)ことを祝ぐ。
ゆゑひとつは。物古意にて調(ウト)しとゝふべし。いにしへ香(カグ)ば
しき古風にもあれど。雅(ミヤビ)なる心ばへ。ゆゑ
いぶく来べしや。聊もわさくゝをとゝは(ず)して。心を種
とゝたるゝこゝろ。神代ながゝのすがたにまかあり。
はるゝ古今集の歌ゝ。今は大御代なれど。庶幾(ホドク)
うるふあれど。まもいぶくゝさばやなどゝ下にあれば。
個あれことの集をいで来べうゝ。ばれを。古今集を
牝昔よりもより。近躰(イニヤウ)の歌よりむうゝ。新古今集
を主(ヌシ)とゝ。ゝるべし。或は新勅撰集より撰(コル)べ。わ
ば

我(ワガ)ものゝ。いふ所ゝ。又ゝ後京極殿の躰(スガタ)を習(ナラ)
ひ。ゝ西行法師の調をまね(ば)などの規則(オキテ)をば
ゝむなれば形ばこゝて。古意にのゝすゝ(ば)等類(オナジタグ)ひ
ばこゝ詠(コヽラ)多あるに耳なれ。その歌ゝこゝろ得。
ゝまく的(アタ)り形ゝ。
ゝりゝく。哥なゝ(ば)と誹(ソシ)ありゝ。ばあるなる
ゝ似ゝ。ゝきゝ。おゝゝ草(キクサ)の一本ゝく
枝ゝの同ゝ。ばゝなく。ふゝばひゝ。ゝ
ゝなゝきゝ。準(ナヅラ)ゝ。ゝゝ。さゝゝ。厭(ミヤナレ)
ばゝ。ばゝ。何ゝ。ばゝ。聲(コトナルスガタ)

発るあり。又調を詩のひゞきあめど。雲〜況や春花
百鳥花こゝろ〜のまゝ形〜きゝ、秋風よりも
分に感ずめれど。萱が新播の雫にぞ〜あ
わく。自然とそれまわることゝ本よりなれど調を
主とあげつらふ。やまと。歌論それ題云
あめど。異なれこゝろを設るにも有〜ば。真景
なれば是この一るゝ論あかまで。それ題云をはく。
さく其旨致を述ることゝろはひとかるゞ〜こゝたよ
象にちかい往昔より。今にいまり。ゝくさかり
出るすはひよりか法るも。時世の随なるゞうめれを。
其古ゝを強くなかりしわざ形りとて。甚いと況
〜れありつるすゞく古にあづこ。今に倚頼ひておち
其ゞの心をこゝろとせばるものたり。ゝうゝ素
直なれば。花こゝの葉を撰れる。ゝるばを感れく。
先ゞ言況の歌うきも。實なゝざれるを況ふ。
さるゞ哥を人の心を種とし。そうゝ言ねと
なれる人のこゝろ。すれほあれを根とぞ況
ゞうり者歌。
況を表きるハ。ゝんあれを才ちたく形況ほど
をはゞめるく。近世の俗語。卑賤況もれ〜語まで

を雅言(ミヤビコト)は澤(ウツ)して三十一(ミソギヒトツ)字(ツヾ)は殺(ツヾ)りまぢらしたる
葉ずゑ殺(ツヾ)る初口(ウヒクチ)号(スサミ)などを、ほの見そりなど、
すべてすべて殺(ツヾ)しごとなるべどもこれをうち
皇國(ミクニブリ)風を、あづかる歌の道にあらはすべきなり。いろはを習ふ初
る子、まづ片仮名(カタカナ)を賤(シヅ)まれ、一わ、りそ、つね、の面(オモ)にさ
とちまほ、くく、ぬ、ぐ、ろ、柄(ヘ)ふ、あ、く、数(カズ)、ま、し、
はけ、る、を、こ、と、の次(ツギ)をよ、う、た、れ、そ、つ、と、う、出(イ)たれ
なり。祖(オヤ)ども、時代(ヨ)、し乃撰集(エラビ)も入(イ)れ、まて、る、を、未
孫(コ)なれ直(ナホ)ども、う、ひ、ま、ま、ま、る、わ、ざ、を、ま、ま、る、よ、と、く、を
しる、はん人、を、笑(ヒ)ひ、ま、う、し、

祖父(オホヂ)、八十あまりハとせの賀をけるに、おのゝ歌(ウタ)ども、竹(バウナ)滅あ
まりにしく、初めて書(カキ)籍をみしを、まき、端の、ち、人、に
なひ、く、こ、ろ、ま、な、し、を、あ、し、び、。今、よ、り、ハ、と、せ、に
ふ、ま、く、ま、ま、を、よ、な、ど、な、ま、り、し、ば、と、ま、ま、く、ま、ま、ば
こ、と、ま、ば、り、つ、ま、ど、ま、ま、ま、ま、鈍(オソ)き、数、ま、の、ま、ど、ま、ま、く、
ま、ま、て、有、つ、る、ほ、ど、七月(フヅキ)ばかり家、ま、く、ひ、と、る、胡麻(ゴマ)く
あるに、母松(ハハ)ハ、来、ま、て、庭、よ、起、ま、や、儀、ま、り、庭、の、松、ま、
ぬ、ど、ま、の、ま、ば、ひ、ま、ま、り、く、ハ、と、艶(ウルハ)ー、ば、を、吾、ば、ま、り、ば、ま、ま、を
し、ど、く、ま、を、見、ー、く、ま、ぬ、ま、を、出、ま、ば、ー、し、と、ま、ま、ま、り、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

すり板(スノコ)敷よりくるくるばかり笑ふ花はなほ咲こう花くめで
さらに無に似ず さくらあぢ中〻に花の実はひとつもよそ
すつて おこうこあれ中垣のあれくさりなど 二こ度(フタビミタビ)吟(ウタ)
ひくあぢ 二日まだに さらさらあぢ 粧(よそ)〻 手水は
こうもるぢ〻 又 君よ 対(ムカ)へる 毋来まして 「隣(語ノヘ、サイ)」カラ
見ヨトノコトジヤ」と 君よ乃〻 まひて入 ちり まし
八歳(ヤツ)なる 鶴丸いぐ来て 花蕚を見つくれ
やぢ〻 「松二咲(語ノヘ、サイ)夕 秋ト思フタ」といつり ちあるを粧ち
うこ ぬきくあるに 下女(ハシタノ)きくりく 膳(ヨモノ)いぐ ためる
ふあ とくくり 苦吟(ヨミワビ)くれくあ ぬ やぢ 箸をだる
よ りあ あ ぬ よ 後ふくあ あ を 毋 で さて あ れ ぢ 一 見 の
祝ぢ や ず 朋 食 を 乃 に ぢ く あ る ぢ に 花 よ 毋 野
丸 な ど の い る 言(コトバ) す 見 い ち 家 な り。

毋乃 ふ く 君 に の く ま 一 る
陳 ち り 見 ち と 也 ち り 「上ノ句ニ自然コモレリ 君 毋 の 私 よ こ の 花 る 朋 う ほ の 花」

君 は 毋 ぢ の う ち ち ち れ ま に い る
「下ノ句ニ自然コモレリ と 私 ち ち り は ひ ち り ぬ る 蕚 は 「私 の こ す 色 よ 咲 ち と 我 見 る

大 ち て 多 顔 の う ち と い ぢ

後拾遺集
ありとても頼むべきかは世の中を思へばかなの花
堀川院百首
いたづらに折てこられぬ春よりも新しきふる蕚孔花

新題林

胡蝶

こゝろ（コヽロ）を翻案（カヘ）して。うた我言にでゝ。そゝ
ぬにたゝるまで。古めかしくなることをよみ出あり。
やまとゝいはんこゝろ。ことゝうりのやまとゝ俚（サト）ぶりながら。
人氏のお載（ノツタリ）を系にして。ゆゝしくこゝろ。
ず。物の感（アハレ）をゝとく。家ぢかきうゝに有をれたる。
癡（オリ）くもなくさうぶ（ものひつ）かゝてたゝ。を蝶より
奇なあまりなり。

母のおこゝをゝとるゝ家ぶり

胡蝶

わ[illegible]花の新見えるゝ人氏をとく起出て。ものゝ[illegible]
我物ゝ[illegible]ことゝゝ[illegible]ゝ[illegible]なり

あ氏寢するゝ花ゝ[illegible]ゝ来ゝ[illegible]ゝ起ゝやとゝるゝかゝさ
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

あけぬのこゝろ社すき今をかぎりの朝顔

書乃をりく　をくみーえうこと也

をの内乃朝ほのをとも　をつてゝゝ幾度ゝ　れの葬

はゝしめ　ふるまひ　ゝ　ゝ　ゝ

をとゝ　れ今ゝ　ゝ　ゝ　

二月廿日ばかりの夕方はけしく吹やうなれども、
庭の初桜ちらぬうちと、
こぞされ屋は進上さるものあるべし。直
夜したる中、こなたもて参あるべく出さあたり隠れ
などいひつくられあり。そなたを尋ねまいらせ、男
とも雲あつめ、ひとりがいへる。「アヽ、珍ラシ。早イ櫻モ
アルモノジヤガ。是ハ真ノ初花ジヤ」。また一人がいへる。「此
方ノ御庭ジヤニ因テ花ガ早イカシラム」。「ナルホド櫻ハ
花ノ王ジヤ」。また。「花ハ美人ジヤ。笑フテ井ル様ナ顔ハ真
ノ美人ジヤ」。また「コノ綺羅ナ花ヲ私カ妻ニシタイ」。また
「櫻ヲ見テハ外ニハ花ハナイヒ」。また「殿方ガ折ナサツタ枝
シラム。移香モスルヤウナ」。といふうちに。焼火ばかりにて
花のこゝろはしらぬ。ひとりがまた。「コノ火デ月ニ
なりたらばいかぬ人なるべ。ひとりがまた。「コノ火デ月ニ
為タ」。また。「アヽアレ其処ニ影ニテガウツル」。また。「筏ハ見エ
ヌガ嵐山ノ心モチガスル」。また。「實ニ今年モ皆ソレ立テ嵐
山ヘハ行ヲゾエ」。などの契約さへあるほどに。隠れどもよ
みりつゝあるに又。「コノ使ハ羨ミシイ」。また。「丁に花ヲ傷ハ
ヌ様ニシテ持テ行。手アラウスナ」。また。「持テ濟タラ火ニ
デガ淋シヲナ」。などいひくさて君にいやれ参るに

[illegible]

アヽ珠ラシ・早イ橘モ有モノジヤガ・是ハ真ノ初花ジヤ・

世方ノ庭ジヤニ因テ花ガ早イ故シラム

ナルホド櫻ハ花ノ王ジヤ

「下ノ句ニ籠レリ」[illegible]

花ハ美人ジヤ・笑フテ井ル様ナ顔ハシンニ美人ジヤ・

○首尾吟ハ古歌ト
ノミイヘドモ今モ
自作詠コト如此、

○戯言ニ似タレド、
花ヲ愛ルヨリ変
レルナレバ感情アリ、

[illegible]

コノ綺麗ナ花ヲワシガ妻ニシタイ

櫻ヲ見テハ外ニハ花ハナイゾ

「下ノ句ニコモレリ」[illegible]

殿方ガ此折ナサツタシラム・移香モスルヤウナ・

コノ火デ月ニナツタ

「下ノ句ニコモレリ」[illegible]

アヽハレ其処ニ影ニデガウツル

何ぞ[illegible]の[illegible]

筏ハ見エヌガ嵐山ノ心持ガスル

いとゝ[illegible]花をとゝあゝ[illegible]山のこゝろ社すゝ

實ニ今年モ皆ツレ立テ嵐山ヘハイカウゾエ

此春もこゝ[illegible]次たよりつゝあゝ[illegible]

コノ侍ハウラヤマシイ

「下ノ方ニコモレリ」

[illegible]

花ヲソコナハヌ様ニシテ持テイケ手荒ウスナ

[illegible]

持去テ濟タラ火迄ガ淋シソヲナ

○俗言ニモ及切多シ。既ニ事ノ盡タルヲ志万布トモ須牟トモ云ルハ志濃相通ヲ於布切牟ニテ同言ヲノベツヽノテ唱レヨリ此条オシテ知ベシ。

花のうみこゝ[illegible]

奇ナる奇僻なる物ヨ[illegible]人こゝ[illegible]家にさ[illegible]

ずゝといひあつめたる

月あ[illegible]花[illegible]なる屋の[illegible]南庇[illegible]

ざ[illegible]集[illegible]

[illegible]

「此言ノ下ニ」アレハ月ノ彈琴ノ技シラム」とあれ[illegible]

[illegible]「雲モ舞ノ袖ノ様ナ」と

[illegible]傍より[illegible]

都ニ御遊ガアル技ナ」とたゝ[illegible]端

ちかく月ヨカヽリケルノニ「雲ノ簾ハ懸ズト除テホシ
イ」たゞ此ヨ隠シテ月ヲ見ルヨ。おもへば近ク付テ
居ルハ。発ぐたるようたどもとおぼえ。

月ノヒタ琴弦シラム

「下ノ句ニコモレリ
おもかげの立にすまてる月ゆゑ」月のこゝたる玉琴の撥
雲モ舞ノ袖ノヤウナ

「日
久しうも月おもしろよ秋衣」ゑもの紐とこゝろ
月ノ都ニ御遊ガアル歌ナ

「日
舞のそで月ゆゑ〳〵のあやゝ紀ハ」月のそなるはそひるゝ
雲ノ簾ハ懸ズトオイテ欲イ

「日
おもかげにうつる月のこゝかゝ遊けぬまて」をのすゝ秋衣月ゆゑ
おもかげ（ツイデ）流ヨ発ぐたるようこゝ。あゝ紀きる
に似ルヽ。我の一そゝ。月のあはれを知ル
（タヘル）
たこゝをゝ。

夫乃東国ヨおもむくに。そ書ゆゝ情ゝて書取
（アヅマ）
すぐ到ル。ゝ紀かそゝ紀ニ紀尺笛ゝ
ゝ。我も共ヨ行ク。関ちかくなりぬ。書ゝ紀ゝ
一ゝ一足ハ千里ニシテ欲イ
（ヒトアシ）（センリ）（ホシ）

「日
別紀ヨ書ゝ紀ゝ紀ゝ紀ゝ紀」いま一面ハ面さとゝ
きゝ一ゝたゝ切なゝ紀。紀ゝゝ
（セチ）

ゆばりしてハ此うはかりなり〜む

獻様なるうるはしきものこゝ子・中歳ばかりなる男・ひとりと

ありて病く・はなはだよ身中ばかりなるをとゝのへ・ひとよハ泊て

ありあるものよ・門に物乃申と泊るを・そこの女房

つゝく云ふる・

竹馬ニ乗テ・他ノ兒タチハ三ナ遊デナサル・

仲丁にのりてよ不乳ゝ形なる不ハ門よ遊ひてそある

声モ聞エルヤウナ

ハすゝ花とゝに遊ひくなる弾の門よ参ゆゝ社ゝを

すゝ・文机のうへよ乳さ〜〜反ものゝ乳ゝを入ハ〜〜・



此様成モノヲ遣シテ置トテ・年モ不長ニ手習シタ欣

シラム・

なる乳あとに出のこゝ乳ゝを為ゝて手ゝ出こゝあよ身ゝ書き

ゆゝ〜ゝ乳ゝとゝ云て

教訓モ能キイテ長シカツタハ・早ウ將別トテハ

アツタ欣・

此ゝあてゝの乳ゝを乳ゝく有つゝ乳ハ〜〜ぬ刀ゝを乳ゝんとなり給

御灵祭ニハ去年ソレテ行タガ・約束シタ北野ヘハ

イツヽレテ参ロヤラ・

出ゝを乳ゝの身ゝ乳ゝにゝを乳ゝを行〜〜参り〜北野ハ泊ゝ乳ゝ

世なく恨めしく思ふの心をいとゝ人の七八歳なれば・んうかぬ
さ海ゝくとも泣きぞ泣き・ある男其処へいり来る
やがて・それ女房の袖を引くいる・
泣ナサンナ・ヨイ取へ出タノジヤ・
なりけく形よく見て取りて「やゝ海り来るとも何りる」
或ハ
「何いひく泣きを必ゝ出」
なごの気あるべし・ふと・いさん・ひと云だよ優よ
をちめくてこの形・毎月恋ひやるべし・よろぼの
哀れ・つけなるべ・ふ首にもあるかもむ・

直路ナモ

早賤見それ調ものとよりの雪肌の
三月末つゝ・吉栄門のちゝ陳をすめる賤女山の
木栄に躑躅をもへ海りく・繹をぐにいまざは
ばさぬまにさゝげもく見りて・
餘り憂イ花デゴザリ・シタニ因テ・稚子ニ九日ニ将掛
ト思テ・折テ帰リ申タ」といふる一そを流るゝ・
あまりにもうたてかりし也れハワこにきんと持く海り
ぐ元をぐやの志氣を・花のいろするひと
ゝ・
月面いたよりもゝ・ゝ海ゝと・ある幾ゞ門

乃ほとりもとほりのくにに入て麦の穂。
かたちもれ面にぬきく。たゞび萌出るりそこそ
農民乃たゝもれよ。おろ出いてくこゝて穂の殼ま
なゝバ。実熟して殼るゝ。さあどこほどのいとまも
なきぬ。稲刈ものもぞ。ほどあ待ゝる為。霜雪ま三のぎ
くるもぞゝ。田子者〳〵〳〵。

○俗言ニモ自然古曽須連トイヘリ

○下ノ云ヲ先上ニコトワリテ。自然語ヲ切タリ

然ヨデハ坐有申。「近ニ雨デ穂殼ニハナリヽスレド。雪ニ
モ不負麦ナリヤコソ。」「私等カ命モツナギヽスレ」

此云ハ
ふくこゝろ

然而又。苅テ菁ヽシタ中ニモ種ガノコリヽスヤラ。麦藁
屋根ニ麦ガ生申タ。「勢カノ強イ者ジヤナモシ」

此云モ一云ふくこゝろ

苅ものの中にも種や孫るゝん麦ゆゝ麦ゆまよもきは〳〵よくり
農民ガ麦ヲ須るゝされこゝれり

十二月十日あまり。貴布祢社ま詣まつまるに。こゝ原の
はゞめつゞに。いゝく降つゝ雪。まゝ不ぬ雪ハ濡花
ぬ。牧樵夫どもハ手須幾。雪ヲ押ヤル具 我武慈基葉沓ノ下ニ
履テ雪ノ上ヲ歩ム具 なゝどいふものを。ゆゝ入るほどゝ
ぬ。一人の木こりまよ。此あどハわく〳〵きたるゝ。
やと尋ぬるに。
然ヨデハ坐有申。彼七日ノ日ノ甚寒イニ。「暖イ

南ノ雨ノ降タハ・此雪原ニ住デ居者ノ為デゴンシタ・實
三天帝様ヤ貴船様ノ御蔭ジヤ・若彼雨ガフラナンダラ・
柴モ荷ハリヤシ申ム・と云へり・發のこと案ずるなり・
あるこの花あるの條この二乃雪ふすむ人の事也

次の話

天の逆手神のめくみ多ありて雪の降す八栄もるあるへし
是も多くのごとし・あるこの花・此ことをすべくばあ乃
一そよ自然こと多ありて・故ありなるべくこのごとくべ
の為ものこと・わりなるべしやよりそとまあ
つくるの花・人の和にあるたやりなのバさるなんも

○俗言ニモ又語アリ、アロカナイデアロウノニテナルヲ見ルベシ・此類猶多カリ

ものを・乃花とふ鍵の口号・あれこそ・ものを
ものを・水を田主などの類ひもされ・なるべ
日ごと・業をいそしめるなり・雨あるなり・曇あるる
など・風毎のうしなるそこにあるハ感次べし・
いくもの・笑きものあるこそ・髪ほどいさと
わけものを・女二人・こと田舎の小路を立ぬ・おの
く・歌うべ・家にいる・詞を・乃田ぬぶりにさんげ・
内ノ小兒ドモハ鴉ノ子ノ様ニ母ヒトセガミタテル
梳櫛モ無テ此様ニシテル者ガアロ故
ひとの乳をにものの子供八小形乃こと汗そをあたつれる

小姫とて命ずるになりて吾はすりかえ所ありあめ

一人がこゝろ〳〵は

「見ナサレワシノ髪モ鳥ノ巣ノヤウナ」

こゝをもてよいとまゝくしてゝ我髪もそれ巣なりてこれ所なる

うち僧たる贈答ともいふべし。又これ母とはんとて

かゝすをとり出こゝる八全く挑辞なり。凡枕こと

葉も。象をそなへたるひとびと。そをも頃〳〵ゆ

うりにしりなど。そ居多うめども。日本紀私記

よ。發語と書るごとく。言乃毋ふと為する

ことゝなりもゝ。こゝ凡今此鶏の類ひとびと。

さて夫がおゝづゝめぐりもくも屋所〳〵の雲

元〳〵。一その文飾ともなるこゝ。こゝ元乃

第の麻ゝはずめ此鳥乃縁徳ようこゝ凡〳〵

貧女が言葉〳〵歌きわびゝ凡辞なりたすべく

もゝ免後たる物にもあゝざるるゝのもゝこの形

なるべやはゝこゝの多女こゝみの農民樵夫らゞ俗

言も雅言にたゝ。三十一字よつゝぬまゞこゝと

賤しゝうもゝ言ゝ貴ゝ歌きあさこゝゝざるまゞ

余情さ一部一平原あゝ。あゞゝ乃和もむ凡一

凡はあゝもゝゝよ。機縁必乃日本國ゝゝ

乃至たとへば國と。往昔(ソノカミ)よりたゞ一世にいふ語(ウツ)なれども。この外にも物もふことをいひ出されぬ事多し。ことばとなりてもこの一すぐさとりつづし。又雅言と俗言との差別(ケヂメ)あれども。諸方まに出るとこの三十一世あまり。猶(タヾ)一つ。猶(ツヾ)りしとにたよりそこれ近俗(サトビコト)なれども。たゞ同韻(チカキコエ)なる訛唱(ヨコナニリ)か。清(スム)一所を濁(ニゴ)り。いまく約(ツヾメ)などすれば。ひらくく〳〵しく字面なるなれば。雅言(ミヤビコト)とくこれはれを。きれ物なるハあるべざるなり。この他異國(アダシクニ)の語(サヅリ)あやしくとれ一変(ニシ)。語の始末(モトスエ)なる流ることなる葉などの。

ひとすゝにきこえたるハ。さぞ耳にも歩(ホ)ゝ〳〵やしくゝやがてことなるひまだ。さけぢ給ふことに明〳〵このにく正しゆれるんことなかこうゝじ。

この一。みうれ俗言すゝ同韻よりこの形なり。延(ノベ)約(ツヾメ)などなる有をこれ遠き古言の乃ぢ所ぢあなぢあるをもの一ゆるぢ。且(カツ)これ慈更(ナド)等を延約なぢいふるもたゝぐ。ただ口よりかきていふるがあのあと縛(ハタラ)けるなるハ。古言もいすゝ一を約(サ)なりしことを。たれぢ。かく古を俗言ことわりハあれ仮ゝの。ど。古言を古言なるあぢ。いとく耳(ミヽ)ぢ所ぢを。今

出ひ〻く海するこゝとなのゝ里（サトビコト）畢竟を乃ぞく〻記こ
とを既いてゝごめ。さわぎまぐ世に著（アラハ）く通（カヨ）へ
れ雅言正言ちう〻記也。或人の云ふ論ひるゝ〻。貧女の
云にたゝをれハ〻ぐ。子著。そを平（ツ）子供母（カ）なぐハ〻る俗云を。そを〻
おもひ誤ゝ〻。すでに萬葉集に。富人の家乃子供の記るゝ〻ゝく
たゝ〻ぐ〻ゝ。又母（カ）を加〻〻と呼（ヨ）でハ。加波（カハ）音通〻ゝこゝハ勿論。すでに衆妙集
よ。出雲國仁保（ニホ）の浦ちゝき。かゝとゝふ所の。ぼゝ乃ゝとゝまりく。あはれ
にもいまぐ乳をのむあまれあのゝれあゝりや
まれあされゝん。とよめるを思ふべし。

雲ハ中れあゝわよ何れを為ゝざれありゝ
ある人の云ども尼きにおこをゝ中に

四月（ウヅキ）はじめつゝ。郭公ぞなきぬ。友が記こゝつまゝ。
宝和の裏深くわけ入るに。山川の激つ流をしたゝく
きゝよ〻ゝ。なれよ。岸の山吹あをゝ咲ぬ。みゝるを
も。孫ふゝめゝる私若ゝ。ぐくなどに変りく。物色よりも
物〻〻よ。ぐ〻ゝ。自へり。蓑なぐ〻事のこゝ
ちれをゝ。とゝく。とあゝる。蓑のよゝ花をみつゝ。を家ぐも
尼やりつゝあわぐこゝかゝ。こゝを子紙ゝ物ゝとゝみて。山
蓑さゝ蓑ゝを。ゝ。世よ。ゝ。ゝ。ゝ

く。ふみをはる。

有明の月にをくれぬるハ多紀こゝ[illegible]

[illegible]

ことしこの一にはなを出つけくる

一わらはるに。雁のさまをやたゝげなるべこれ

あることをこゝ和ほこゝろびそめをゝ。月雪まぎよ

ゝ。こゝかこなるれ。いかで思ひまるゝ。

こゝろ[illegible]花を月をまをゝ尺てゝく。和歌社鶴を。

思ひ寄と多くゝあれよ流ゝく。たゝてつれり

出ゝれなり。こゝ[illegible]の先ぐをゝ尺ハ。初紀より

[illegible]ゝ流ゝ尺ハ[illegible]ゝ。元ゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ。中ゝにゝの[illegible]な

ゝゝしゝあゝ。[illegible]お詞(ハシブリ)よ源[illegible]の

宗一尺尺ゝ[illegible]あはをなゝ。やゝゝ長[illegible]

なりけりゝ。はけ一[illegible]りよひを[illegible]尺てよゝ。

ゝれ花の[illegible]紀[illegible]

ゝゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]川の[illegible]

いゝ[illegible]ゝ流ゝ[illegible]ゝ[illegible]

松ゝ[illegible]ゝ[illegible]中よ[illegible]ゝ[illegible]

ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

ゆうけ長雨つゞくをあゞ峰の雲きにの木むらにあらたにさゝやこたにつゞくあ一曳のふひこはつゝ群をゝ〳〵々和歌

たゝ〳〵のゆるゝまゝこゝろ乱るすさひなるに月面おさなるむ。

ある法師ゝとゝもれけるく。翁馬ヨリ下りてとのこ。

永延元年三月中旬東へ。さまゝく為信りきゝ中に。

壹岐島ノ鳴嶺ナドハ。松ハ三ナ倒レテル。岩根ハ崩テル。山ノ如ナ嶺ニデ波ノ越タ跡カゴサリニシタ」和尚たちも起こたゝ夢ゝ申しといふこゝろ

ゝ月ゝ中ゝ三ゝ日ゝ。ゝ月ゝ中ゝ。すさまゝ記為ゝ。

ゝ我ゝ。ゝ哥ゝ。ゝ。ゝ。

いたの月よ契りたうべく波こゝろもうゝ病の末乃松山
あれ田舎の老父隠とゝくゝりしゞ。ことゝれく
帰りしを恨びくゝ。はゞ見てとゝめれ。
書とゝめの手刺の庶れゝ蓮やたきゝ水流を由況つりくり
こゝろゝ北ゝ多ぬゝ。ゝ乃ゝ人ゝ多ハあゝざゝまゝとゝずゝあ
乃大とこゝを。古風を。あゝざゝまに学ぶゝる也。萬葉集に
雪連宅満が三韓よ渡るに。壹岐嶋まゝで到り。病
く死ゝりし時。その友六鯖が愁傷の長歌よ。上畧
由吉能安末乃保都手乃宇良敝乎可多夜夜
伎豆由加武土須流流爾伊米能其等美知能
蘇良治尓和可禮須流伎美同反歌よ新羅
奇敝可伊敝爾可加反流由吉能之麻由加
年多登伎毛於毛比可禰都母云ゝとあるは
詞を假借くあゝぬゝ。ゝ。ゝ。

と、ふるきよの記、きゝ給ふ拙しとも、ひとゝ〻あり。古事記
日本紀などにも、既以伎等と、ひるとゝ、ばや。萬
葉集のこゝろこゝに、傳あゝ。ゝ、ひとゝ以伎とも、いふべ
ゝ。ゝ、ゝ、ゝ、ゝ代よ、順ひとゝ。こゝに六鯖が由古とを
みゝるゝ。今ゝ、ゝ、ゝ昔に六鯖あゝ。ゝ、ゝ、ゝ、といふ
はんてゝ論なゝ。往とも往とも、ゝ、ゝ、ゝ如く。伊と
由ハ同顔なゝ。古ゝ夢。今ハ夢と轉音ゝ。
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ猶寢目とゝ。ゝ。ゝ。ゝ六鯖が云
なゝんや。かゝる者ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ云ふも
ゝて、ゝ。ゝ。ゝ最手に古今ゝ。ゝ。古

的當なゝ。ゝ著ゝ。ゝ。ゝ。

ざつたなる。古今集の序字序ハ。後人の為をもて。
位づけかゝることゝ見えつるを。詞近ハ耳ニとあれを
見おもふ。博(ヒロ)く古今をあれ〳〵見。卑俗言(サビコト)を除(サ)
り。詞(アヤマリ)を正さむことゝ見えたるわゝいまゝ今乃
和釋(ワイダメ)なくてもいらぬ。ひがことゝ見えたるもの。
みこゝろ。記(ふみ)の末ハ。ハかりといへる。近世の作例よ
いく拘(カヽハ)るよみ人なれば。古今集よ。君をおも
ひてあぐ〳〵人をわゝのそらぬ末のハかなみもこゝ
ろ。とあれを中ゝ。さまぐよ翻(カヘ)案し
あやまりをぐ。なれ。なれ搖(オキ)ぬ。ふ。ふ。ふ

つまよやたくさんある蕨（ワラ）もりろ玉・そまり・唐手
おれたるに・そこらばきのこる・折よりあまってもの・唐
手ハ拍子をとりてあるこゝろ・にも成つ居・

子等（コドモ）ハ手乃感（アヒ）なりざれたるこゝ

賜ものあるこゝ

十二歳よりあるる女児

手鞠たく毒の来ぬ先ハ芋も柿よりあそびてくらしたるこゝ

柿ハ水といふこゝを　十一歳にあるる男児

うちんの形のにうつくしくうつくしく花新もよりんをもて家に

五月五日　八歳よりれるものこゝ

ものこゝ面よりの水ハ底よりあ歳の花をちりうく

尊形よりもこゝに庵をあく　十二歳よりあるる男児

神山の形こゝけうに弱ゆけ子あるの映こゝ毒ハ形こゝ

毒ハ水のこゝ

ゆよりもの雀ハ八つあるこゝ水ハ橋こゝ姫こゝの名程

父なく形の・毒家の位ハつまりくるりて母家

も新こゝとにみくこゝ　十一歳よりあるる

あるが・こゝとすこゝ一毒の・ひかりにもあらず

毒毒こゝに・ひとるあれやうありて・そこ毒こゝ

ぐひ毒ハくこゝこゝ毒ハよりあれ・

あらそひいくたびとなく草はうく海るとたまへ出かりて案
ずれば情（ゴロ）のうれしさいかばかりなるらん

車にのりてゆくあの松と樹たちあるはうれ
しきものなるべし。なほもて初（イトケ）て村を出る
よりくしびく・ほたるもすあれば。いかれるにつけ
れども。ひとにあまりてむつかしくたづねきたり
きぬるまなびつらひなどもつかれど。とかくいひく
ひなはざるまもなりなく病あつまりきたい
とゝめくなるわけなるあれ。

ふ世まのことゝ思ひ出たるにつけても故を祈ること
ゆゑをたづねるやうにさるかくこゝ
ある所。やこと形よりはまつ。あまりと年まもなる仕
またのうく・ひ西堂などある物をさらにく・つま
ゝ多くあるよあるを見つ。いたるもよりまの記
ひつたりこうく・すこにあはれなるハるのりを記。
さてこの松殿。ひこちゝ例なるだ松はまして。ひま
ばまのれねだる。ほをまをくり殿（クスシ）なを験（カヒ）あるて。
殺（ツク）よはの乳くなるまを。そたち女房いたく殺
きく・ひ忌（ミイミ）まつる尼となりて。

蕪衣ぬれ拭ふまでなるかハさてにて流る墨ぞめ紙袋

すはくるまあき渡却平所る。若を抑り〳〵る

こゝろもかくわさら〳〵形の寄り。

巧者人のあげるわよ人てるうふ。さり所〳〵ひなどど

ををはゝとゝく。頑乃毛ものこ親ゞるゞ。四帰を

ぎよ稲をゞ〳〵て窕（メデ）をめ〳〵小書（ワバメ）やまの〳〵く

身まかりて後よ人てる。

ををんとゝかんの感ゝわ所を知をなをゝこゝの

この助ゝものかゞゝの者ゝをてゝる。こゝつゝめく

これ歌所をすゞ〳〵。

直路四十

三クニブリ

国風ゝて寄よゞばるを形〳〵

丹波国にくを一生の景なり〳〵ものこ都よ出ゝや

づこの一生ををけゝ〳〵和ゝ所ゝ。所に里を思ゞめる書

ゞどゝをゝ。をひくゝてあゝ。基氏家を継（ツギ）あ

る家に仕ゝて。年（ホイ）をゝゞゝと慣ひて。ゝと勢ばゝ所の

形よ。ゝれ書ゞゞゝ。ゝ所ゝの男（イヲノヲ）いゞく所て。つひよゝ

をゝゝゝわゞ。ゝりゝるゝを悔（クイ）ゝてぬゝゝを歎さて。

ゝろこゝひゝ後のをゝと成ゝゝ我分ひと所のゝ所世ゝを思よ

とよみたゝを。白氏すゞゝく我ゝゝにをて来ゝゝ。

う〻孫すゑ末つ世に。古事をもおぼえ伝へ。祝ぎ
出るも恥(ハヂ)なれど。なほげに命のよろこぶべきなれば。
ひとかたよりなほ〻とく出るか。あはれこの
なほ〻記しの事なるを。いとゞ八葉くは一ぱ花を。
あれ法師ことあり〻く。法の為に自害をもに
出家(カキノコ)せる。
身を捨て罪をくさくさ此れと知る八嶮死の門に
う祝ぎとゝひ〻そ。中にうぎり形くゝ出て。
此僧世にありしとき記憶にもとゞまるを
を男人なれよ。めかし。



何れ度の首服(ハツモトコヒ)よ。こゝを花祝(ホキウタ)ぎまゐらさ勞みて
中に。その家(イヘノコ)乃神あくよあれ。
うひ冠帝しかく尼西る若君の御代をとる昭へ庭の松柏
数なるめでかゝりく高ぶるさかえるに
く。東ごろ四殿を佐〻く功(イサヲシ)をたくさ
面の方(コ)をたんなり。
播磨國室神社(ムロノヤシロ)。賀茂の皇大御神(スメオホミカミ)よ中は
七ぢ。よろぢの神事(カミワザ)。賀茂よりもあづこりまつる
記よ。七月一度びづて。五月ばかりあるは小五月祭(コサツキ)と
く。室(ムロギミ)ゐ〻ゐさへ。拝(サホノウタ)奇なと。遥ひく。いと古代

なる系(ツヅリ)祝あるごの。世うたりく。今八十年。あるを廿(ハタ)とを
に一度。六月(ミナヅキ)まふ。六月九月(ナガツキ)などに行ふことになな
まつり。さて祈ごとにも此たともいはず。齋垣(イガキ)乃
蘇うの所ごに咲るほ乃こみ書もかーこともあど。
皇神を感(アハ)ぶと和もほーめ次免る祥瑞(サガ)なる
ごし。こと一六月五日にも。そ小五月祭ありくぶも
をことをとある神を書ごまつりく。さてこれ瑞(フ)
藤(ギ)一姫に祈まくこの乃りて。表ごとを知きれが祝
しかめど。友どちにもこを恨ひく。雨よく洒くみる
どーうあるに。これ神を乃被宮たて下わしを

乃ー親(オヤ)おれど蘇よ感(メデ)く。初めてよ免ん乃祈りとて
一人(ヒトリ)が語出る。
末世(ミツセ)まもあーしなれ女室乃神ちさかきーこ乃葡乃花
人ーれる。吾藤園よ集(ツド)ひくくるあがるや。こを
まくハ心ーこ乃れ免のげ免所といふよ。初五乃屋
あれごーしといふ人なれまもなーれごーれく
乃ひなれ生んよりよ出ーつるなるあどさても
調をとれひを。たごこのく形ごーなるごし。
おれごーまる神代よりれすさひる。神代な
ごれ蘇よ乃ーを免るまや。

文政三庚八月はつ見つゝ

賀茂直兄

歌ふ[ウタ]みちいでゝ[イデキ]ふるさと[ツミチ]の[ナ]山[ヤマ]ぶ[ソビ]ゝ[ヒサカタ]ふる[タカ]ゝ[子]ぶ[ヒ]ゝ[ヒサカタ]ゝ[ヒサカタ]ゝ[ヒサカタ

この日ごろ雪ふる間、おのづからたぐへるこころ
もちて、雨のさつる頃、おもむきたてまつる時、
こゝろ地いかばかりまさりて、こゝかの
ものゝさまにいとゞ、むかしとなつかしく道
乃童道にて、なづみいそぎ、十あまりあまり
ケヂメアラン、なかばにて、たくひなきものゆゑ、
イハゝ、ものゝ形ばかりなる、ものゝ
ものゝ、わがまつるものゝ、ありけるとぞ聞

もあり、ものゝ、ひとつのぶもちて、このやちの彰の渥ふ
ゝ体の大海ぞとゝ、にてゝゝ、ひいるあるあ
物をこゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ
ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、ゝ、

まうけこ聖居てまうでて直に弱を祈
乃八咫烏の神霊や導きたいた宝神
の座に高天原に坐ますかの上るにかたち
麻〜石村をつの抜き振笠を取まま
草〜〜〜

簑(ズノ)子(コ)ふ雫(スダレ)濃(ヨド)るさつきのころびいとをでを(アラ)
まつあ獨(ヒトリゴト)ごと冊尾(コレルカミ)を懸こ書(カキ)たるふ翁(ア)
打(ビキ)ちる風(ナニ)ふ(ハ)のこ(ミ)濃(ジ)ゐ旅(タビ)宿(ヤド)るふてない

文政に春新雪庵朝

風雪のこ人

夏原雪毛



文政六年未春刻成

製本所

京　錦小路通室町西入　恵比須屋市右衛門
心齋橋通唐物町南入

大坂　河内屋儀介

江戸　日本橋通新右衛門町　前川六左衛門